



スリランカの女性リーダーたち（ウバ州モナラガラ県ガンガシリプラ村）

## ごあいさつ

アジア・コミュニティ・センター 21 は、今年の 3 月に 15 周年を迎えました。ご支援いただいているすべての皆様に、厚く御礼申し上げます。

ACC21 は 2016 年度策定の中期計画において、権利を奪われた貧困家庭の子どもと女性を対象にした自主事業を行うことを決定し、17 年度にスリランカで、18 年度にフィリピンで事業を開始しました。上の写真の女性たちは、スリランカ女性支援事業の 3 年間を振り返る会合の参加者です。彼女たちは女性組織 19 団体のメンバー 780 人とともに、農産物の直接取引を実現しました。地域の商慣行を覆し、地域全体が活性化されたいま、彼女たちの表情からは“自信”と“安心”が感じられます。女性たち、若者たちが自らの人生を切り拓き、地域に影響を与え貢献する人財となるため、ACC21 はこうした活動を続けていきます。

ご存じのように、いま、世界中で新型コロナによる影響が拡大しており、ACC21 はいち早くフィリピンの貧困層の人たちへの緊急支援を開始しました。コロナ禍でさらに底辺へと追いやられ、絶望のなかにいる人々が生きる希望を再び取り戻すため、ACC21 はアジアの現地パートナーと連携し、新しい発想と方法で取り組んでいきたいと思えます。

代表理事 伊藤 道雄  
副代表理事 鈴木 真里

アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21) は  
 アジア 12 か国の 100 以上の現地 NGO とのネットワークを基盤に  
 アジアの貧困削減にむけて活動する国際協力 NGO です。



《目次》

- 1. 数字でみる 2019 …p. 2
- 2. 活動現場のひとびとの声 …p. 3
- 3. 2019 年度の活動報告 …p. 4
- 4. 2019 年度会計報告 …p.14
- 5. 事務局から …p.15

- ①スリランカ女性支援 ▶ p. 4
- ②フィリピン・ストリートチルドレン支援 ▶ p. 6
- ③日韓みらい若者支援 ▶ p. 8
- ④企業との連携による途上国支援 ▶ p. 9
- ⑤ ACT 推進／公益信託の事務局活動 ▶ p.10
- ⑥日比 NGO 協働推進 ▶ p.11
- ⑦広報啓発など ▶ p.12

**723** 数字でみる2019

約 35,000 人

2019 年度の ACC21 の活動で受益したアジアの人々の数です。

約 400 人

イベントや学習会、事務所への訪問を通じて国際協力や ACC21 の活動について知っていただいた人数です。

1,925.7  
万円

3 つの公益信託の事務局として橋渡しをした、アジア 5 か国（日本含む）の NGO 等への助成総額です。  
 （詳しくは p.10 参照）

## 活動の現場から、ひとびとの声をお届けします



### スリランカ



参加型有機農業認証  
(PGS) を見せてほほ笑む  
エレムさん

“ 私たちは長年、月利 10%にもなるムドラリ（仲買人）への借金返済で精いっぱいでした。でもこの事業に参加して農産物の販売単価が上がり、借金を完済できたことで、メンバーの考え方や行動が 180 度変わり、新たに 6 人の女性が私のグループに加わりました。また、有機農業認証を申請するために始めた栽培・コストの記録は、続けているうちに非常に役立つことに気づきました。今では卵や野菜など、ほぼすべてを自家生産・消費できています。”

このプロジェクトの報告ページ 4～5 ページ



### フィリピン



フィリピンの自立支援  
プロジェクト修了生・  
アーノルドくん

“ 僕はマニラで生まれ、幼いころから家族と路上で暮らしてきました。父の薬物依存や母との死別が原因で、僕も薬物に依存した時期がありました。でも自立支援プロジェクトを通して、悪い習慣をやめる勇氣、将来の目標の大切さなどを学びました。実地訓練でお世話になったホテルには、働きぶりを評価してもらい、系列店に就職することもできました。将来は、大学でソーシャルワーカーの資格をとり、**路上で出会った友人たちに、人生は変えられることを伝えたいです。**”

このプロジェクトの報告ページ 6～7 ページ



### インドネシア



モリンガの木を育て、  
加工作業をするダヤク族  
の人々

西カリマンタン州カプアスフル県セミタウおよびスハイド副県は、マレーシアとの国境に近く、ボルネオ・ダヤク族を祖先にもつ人々が多く暮らしています。狩猟採集や漁業を基本とした生活が長く、農業技術が普及していません。パナソニックと現地 NGO との連携事業では、太陽光発電電気を活用した地場産業として、健康食品として注目を集めるモリンガの葉の粉末の加工を推進しています。6 万本以上のモリンガの苗木が、関心をもつ住民たちの手で育てられています。

このプロジェクトの報告ページ 9 ページ

## 活動報告① 権利を奪われた貧困家庭の女性の社会主流化支援



夜も眠れないほどの重圧から解放されました

ACC21 とスリランカの現地 NGO「ウバ・ウェラッサ女性団体」(UWWO) の共同事業は、18 女性組織のメンバー 780 人が、特産品ピーナッツと有機農産物に付加価値をつけ市場を開拓し、十分な収入を得るとともに、長年の商慣行を変え新たな地場産業を実現するという画期的なチャレンジです。

仲買人を通さず MC に販売できるようになり、高額な借金を完済した喜びを熱心に語る女性

### 活動の 実績

- 1 ピーナッツ 205 万円売上、農産物 6 トン出荷、年利益 (50 万円) の見込みがたちました
- 2 仲買人と高利貸しへの依存度が大幅に下がり、若い女性たちの参加が増えました

### 新たに 8 つの女性組織に対象を拡大

スリランカ東南部のウバ州モナラガラ県ウエラワヤ地区では、1 日 2 ドル以下で暮らし、多くの女性が家事、家族の世話、農作業など重労働を強いられています。また、夫からの暴力や一方的な別居・離婚で母子家庭になるケースが後を絶ちません。2017 年度から始まったこの事業では、建設したマーケティング・センター (MC) に特産品・ピーナッツの加工機械 (殻剥き機) を導入し、付加価値をつけるなどして農産物の 75% を卸すシステムを確立し、仲買人に買い叩かれることなく、適正な価格で取引できる市場を開拓することを目的にしています。2018 年度末までに、女性組織 10 団体のメンバーの収入が平均で約 20% 増加し、本年度は残りの女性組織 8 団体に対象を拡大しました。

### マーケティング・センターの改善

通路、雨どい、着替え部屋、手洗い場を建設し、棚、事務机、椅子、エアダスター、大型手押し車、金庫、ピーナッツの仕分け作業机、監視カメラなどを設置しました。

### 人材育成

本事業終了後から女性組織が主体となって共同ビジネスを推進するため、女性農家、女性組織リーダー、MC スタッフを対象に次のような研修を行いました。

#### ●農場管理研修

風や雨で肥沃な表層の土壌の流出を防ぐため、棒と重石、ひもで作る「傾斜度測定ツール」を活用して傾斜度を測定し、畦 (うね) や土手を作る手法についての研修を行い、185 名が参加しました。女性たちが実践した結

「スリランカ女性住民組織による共同農業ビジネス開発と市場開拓を通じた地場産業の育成と女性のエンパワメント」

期間：2017 年 4 月～2020 年 3 月 (3 年計画の 3 年目)

対象地：スリランカ・ウバ州モナラガラ県ウエラワヤ

受益者：貧しい農村女性 780 世帯

パートナー団体：ウバ・ウェラッサ女性団体 (UWWO)

果、土壌流出が60%防止され、保水率が50%増加し、生産量が約20%増加しました。

### ●モデル農場研修

モデル農家となる6名のリーダーが10月に研修を受けたのち、年間を通じ安定した収入が得られる多品種作物（果樹と野菜）を作付けし、過程と結果を記録しています。モデル農場は今後、地域で重点的に栽培する農作物のリサーチ・センター、そして女性農家のための研修センターとして機能していきます。

### ●価格設定研修

ピーナッツ農家（17組織の23名）、スタッフ（8名）、有機農家（16組織の20名）が、農地の準備から収穫・納品・販売にかかる全行程のコストを算出するワークショップに参加しました。その後、160名が人件費を含む投資額やコストを記録するようになりました。

### 販売先の拡大～新型コロナ拡大で宅配需要伸びる～

扱っているピーナッツの7割は最高品質です。従来の大口径バイヤーのほか約10社と交渉しました。有機農産物は目標を上回る6トン（月平均500kg）を販売。コロンボの有機農産物宅配業者「Kenko1st」代表の石川さんが12月に現地を訪問され、モデル農場の活用法、運搬頻度と集荷方法・場所の改善、都市部の顧客の消費動向や嗜好などについて生産農家と意見交換を行いました。新型コロナ感染が拡大した2020年3月以降は、外出制限が長期化した首都圏で宅配の需要が大幅に増えています。



現場に足を運び、需要と可能性を評価し融資を決定した政府系銀行関係者

### 買い取り資金の確保

ACC21と現地コーディネーターの仲介で、2020年1月下旬に、UWWOは政府系銀行から300万スリランカ・ルピー（約187万円、年利6.5%、5年間）の融資を受け、ピーナッツ買い取りのための資金を確保することができました。

### 周辺に、次世代に波及

女性たちが地元金融機関からの低利の融資を受け、MCに高値で販売できるようになったため、仲買人や高利貸しへの高額の借金の返済に苦しんでいたメンバー（全体の約30%）が多重債務から解放され、農業機械などに投資するまでになりました。現在、近隣の9村（女性210人）からUWWOに、支援を求める声が届いています。また10代の若者グループが自主的につくられ、20～30代の女性たちの参加が増えるなど、次世代の女性たちへの経験共有がはじまっています。



村の若者も参加し、グループが再活性化した Suhada 女性組織

### 現地パートナー・UWWO 代表の ソーマさんからのメッセージ

日本の皆さんがこの取り組みに価値を見出し、チャンスをくださったおかげで、女性たちは農業を基盤に安定した生活を営む基盤ができ、自信を高めることができました。

アーユポーワン！  
（ありがとう／いつまでもお元気で）



本事業の実施にあたり、(公財)日本国際協力財団と(公財)生協総合研究所からの助成金と、のべ72名の方からご寄付をいただきました(2017～19年度)。重ねて御礼を申し上げます。

## 活動報告② 権利を奪われたストリートチルドレン支援



2030年までにフィリピン・マニラの  
ストリートチルドレンをゼロに

2019年度は、路上で暮らす若者たち 27 人に、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」を通じて支援を行いました。また 2020 年 1 月から、都市の貧しい若者たちが小規模なビジネスを起業・発展させてゆくうえでの課題や必要な能力を特定するための調査事業に着手しました。

息子を抱きながら「路上で暮らす自立支援プロジェクト」のトレーニングに参加するパトリシアさん（2019年8月）

### 活動の 実績

- 1 路上で暮らす若者 27 人が職業技術を習得し、ライフスキルについて学びました
- 2 うち 11 人が、フィリピンの公的な職業基準「国家資格Ⅱ類」の試験に合格しました

### ストリートチルドレンを社会の有為な一員に

フィリピン・マニラ首都圏では、約 5 ～ 7.5 万人の子どもが路上生活を余儀なくされていますが、現地の専門家や活動家は口をそろえて「その数は増え続けている」と話します。

そこで、ACC21 は 2018 年 7 月から、現地で豊富な経験をもつチャイルドホープとともに、路上で暮らす若者たちが路上を抜け出して自立できるように「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に取り組んでいます。

### 路上で暮らす若者 27 人に自立のための機会を提供

本プロジェクトは、長年、路上での生活を余儀なくされてきた若者たち（元ストリート“チルドレン”）が、自立のための様々なスキルを身につけ、収入を確保することで、人間らしい生活を送り、社会の生産的なメンバーになれるよう育成することを目指しています。

2019 年度は、計 27 人（前期 12 人、後期 15 人）の若者を対象に、職業技術やライフスキル（日常生活の様々な問題に前向きに対処する力）を学ぶための機会を提供しました。

#### 事業①「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」

期間：2018 年 7 月～ 2021 年 6 月（3 年計画の 2 年目）  
※以降 2030 年まで継続予定

対象地：フィリピン・マニラ首都圏  
（マニラ、マラテ、エルミタの 3 地区を中心）

受益者：路上で暮らす 16 ～ 24 歳の若者 年間 30 人

パートナー団体：チャイルドホープ・フィリピン財団

#### 事業②「都市に暮らす貧しい若者の小規模起業家育成プログラムの開発」

期間：2020 年 1 月～ 2020 年 12 月（1 年計画）

対象地：フィリピン・マニラ首都圏と周辺地域

受益者：都市に暮らす貧しい若者約 1,600 人

パートナー団体：カサガナカ協同組合（K-Coop）、  
カサガナカ開発センター（KDCI）

## 若者たちが真に自立できるための総合支援

路上で暮らす若者たちの多くは、学校にも満足に行けず、家庭でも十分な愛情を得られていません。そのため、何かを“やり遂げた”という経験に乏しく、将来を前向きに考えることができません。そこで、総合的なアプローチで支援を行っています。

### 《「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」の全体像》

①自立のための心構え・お金の使い方

- ▶ ライフスキル・トレーニング
- ▶ 金銭管理教育

②仕事のスキル

- ▶ 職業技術訓練
- ▶ OJT（実地研修）

③就職に必要な手続き・サポート

- ▶ 健診、証明書取得
- ▶ 就活指導
- ▶ 開業資金の貸付

④ひとりひとりの悩みや課題への対処

- ▶ 社会心理学的  
カウンセリング

6  
か  
月  
間

このプロジェクトを通じて、若者たちは「時間通りにトレーニングに出席する」といった“当たり前”のことから学びます。また、期間中には貯蓄を推進し、実際に貯蓄の習慣を身につけ、計画的なお金の使い方を学ぶことができます。

## 起業も選択肢のひとつに

2020年1月からは、トレーニングを受けた若者が、小規模なビジネスを開始・運営するための支援金の提供を始めました。5人の若者が各5,000ペソ（約1万円）の支援（月利1%の貸付）を受け、予め提出したビジネスプランに沿って活用を開始しました。

また、若者たちの起業をバックアップするために、都市貧困層を対象にマイクロファイナンスを提供する協働組合 K-Coop とその姉妹団体 KDCI とともに、「都市に暮らす貧しい若者の小規模起業家育成プログラムの開発」事業を立ち上げました。2020年1月から1年計画で、K-Coop の若者組合員 1,600 人のうち 210 人を対象に、若者がビジネスを始めるうえでの課題や必要な能力を調査・特定し、若者起業家向けの人材育成プログラムを開発します。

## 半年間のプロジェクトを経て6人が就職

2019年7～12月に参加した前期研修生は、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」を12人全員が修了し、うち6人は就職を果たしました。また、2020年1月には後期研修生15人が選ばれ、トレーニングを開始しました。



修了式で晴れ晴れとした笑顔を見せる前期研修生（2020年2月）

## コロナ禍で路上の若者たちは—

しかし、フィリピン国内でも新型コロナウイルスの感染が拡大し、2020年3月中旬にはマニラ首都圏が封鎖され、厳しい外出・移動制限が課されました。このため、両事業の活動は3月中旬以降一時中断となりました。

マニラでの厳しい外出・移動制限は5月末に緩和されたので、6月から両事業の活動は再開されています。しかし、2か月半にわたる厳しい外出・移動制限は、経済に大きな影響を与え、若者たちはせっかく得た職を失うなど、これまで以上に困窮しています。このため、今後もプロジェクトを継続するとともに、現地パートナーと連携し、困窮する若者たちへの緊急的な支援の可能性も追求していきます。

### 自立支援プロジェクトの現地担当者 アランさんからのメッセージ

このプロジェクトは、路上で暮らす若者たちの生活、そして人生に、変化をもたらします。

皆様のおかげで、若者たちは責任ある社会の一員になるための大切な機会を得られています。ご支援ありがとうございます。



本事業の実施にあたり、2019年度は、立正佼成会一食平和基金と連合・愛のキャンパからの助成金と、のべ48名・団体からのご寄付をいただきました（両助成金は、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」に活用させていただきました）。うち、クラウドファンディングを通じて43名から計365,000円のご寄付をいただきました。重ねて御礼を申し上げます。

## 活動報告③ 日韓みらい若者支援事業



市民の手で日韓関係の創造性ある未来をめざす新事業を開始

植民地処理や戦後の処理問題を巡り、日韓関係は対立が繰り返されているなか、市民の立場からこの問題に向き合おうと、ACC21と（特活）Asia Commons 亜洲市民之道は本事業を立ち上げました。

第1回学習会「在日が目ざす日韓共生社会」（11月6日）

### 活動の 実績

- 1 日韓関係で経験と影響力をもつ関係者と事業の将来像等について意見交換を行いました
- 2 第1回学習会「在日が目ざす日韓共生社会」に大学生、社会人約20名が参加しました

本事業の立ち上げに際し、趣旨に賛同いただいた市民の皆さま17名からこれまで計347,000円のご寄付をいただきました（2020年3月末現在）。また（一財）MRAハウスより100万円の助成が決定されました。厚く御礼申し上げます。

### インフルエンサーの訪問と意見交換

日韓関係の分野で豊富な経験を持ち、影響力のある個人や団体（“インフルエンサー”）を訪問し、ヒアリングを行ったほか、本事業の将来像等について意見交換を行いました。

### 第1回学習会の開催

日韓両国の関係をめぐる歴史や民間交流・協力に関わる取り組みや課題について学ぶ目的で開催した第1回学習会（2019年11月6日）では、在日韓国人2世で韓国民団中央本部の宣伝局長、民団新聞編集長を歴任し、日本のマスコミとの勉強会を開催している裴哲恩（パーチョルン）氏（（一社）KJプロジェクト代表）を講師にお招きしました。一般の日本人と韓国人の溝が埋まらない問題について、

日本人が「関心外」として在日韓国人の問題を捉えている点を指摘され、在日韓国人は、よほど日本人と仲良くならない限り、身の上話をするとう関係が崩れてしまうのではないかと「恐怖」があることを知ってほしい、と話しました。



学生時代に差別などに立ち向かう行動を起こした当時の思いを話して下さった裴哲恩氏

参加した大学生の一人は「昔、在日の子がクラスにいました。いじめを受けていたようには見えませんでした。自分の親から“在日の子には気を付けた方がいい”と言われました。小さなときは親が言っていることが正しいと思ってしまう。でも、時代背景や社会背景によって世代ごとの考えは違う。だからこそ、私たちの世代は自分たちで情報収集をして判断したいと思います」と発言しました。

### 日韓関係団体の予備調査

本事業を実施するにあたり、日韓両国の協力を推進する活動を行っている市民団体の実態を把握するための予備調査を行い、100団体以上の情報を収集しました。

#### 「日韓みらい若者支援事業」

期間：2019年11月～2021年3月 ※以降10年間継続予定

対象地：日本

受益者：日本と韓国の若者（在日コリアン含む）

パートナー団体：（特活）Asia Commons 亜洲市民之道

## 活動報告④ 企業との連携による途上国支援



太陽光発電電気で乾燥中のロセラ（左）とハチミツを手取る伊藤代表理事（右）

### 活動の 実績

- 1 5万本以上を住民が育てたモリンガのサプリメント（約186kg）を生産しました
- 2 油やしから有機肥料111トンをつくれたほか、地域住民が森のハチミツ300kgを採取しました

### 4つの製品と油やしを原料とした有機肥料の加工技術を開発

パナソニック製の「パワーサプライステーション」2台のうち、1台を現地 NGO・YDD の研修所「P3M」の敷地内に、もう1台を近隣のマルセダン・ラヤ村に設置し、太陽光発電・蓄電システムの仕組みと活用法などについて自治体や地域住民を対象に研修を行いました。適正技術の開発と活用について長年の経験をもつ YDD は、地域の歴史・特性や、ダヤク族など地域住民の生活習慣、能力、関心事などを踏まえたうえで、生計向上に役立ち、地場産業として可能性のある次の製品の加工技術を開発しました。

- (1) 健康食品として注目されているモリンガ（セイヨウワサビノキ）の葉を粉末状にし、カプセルにしたサプリメント
- (2) ロセラ（ハイビスカスの一種）のガクの部分を乾燥させた菓子やハーブティー

- (3) センタラム地域の住民が採取した森のハチミツの加工
- (4) 特産品の雷魚などを原料としたふりかけの加工
- (5) 周辺の油やしプランテーションで廃棄されている空果房を原料とした有機肥料の製造（※）と土壌改良

※ 有機肥料の製造には、ジェネレーターで発電した電気を利用

ACC21 は、パナソニック（株）と現地 NGO・YDD の間の連絡調整、現地事業の円滑な実施のための提案・アドバイス、そして他二者と共に事業地訪問・モニターなどを行っています。2019年7月下旬に、代表理事と事務局長が同社担当者と共にインドネシアを訪問し、関係者会合を行ったほか、現地住民へのインタビューと意見交換を行い、本事業で開発されたモリンガ、ロセラ、森のハチミツ、淡水魚などの加工作業の様子を視察しました。下半期には、第2フェーズ（2020年2月～）の方針と計画案について三者で話し合いを重ねました。

### 「西カリマンタン辺境地域での太陽光発電利用と生計活動のモデルづくり」

**期間：**2017年12月～2021年11月  
(2019年12月からは新2年計画に入る)

**対象地：**インドネシア・西カリマンタン州  
セミタウ副県（12村）、スハイド副県（11村）

**受益者：**住民約5,000世帯ほか

**パートナー団体：**パナソニック株式会社、  
ディアン・デサ財団  
(Yayasan Dian Desa Baru、略称 YDD)



進捗と課題について話し合った現地会議（2019年7月、ジャカルタ）

## 活動報告⑤ ACT 推進／公益信託の事務局活動



日本を含む 5 か国を対象とした総額 1,900 万円規模の助成活動を事務局として下支え  
 アジアの途上国における国際協力の豊富な経験を活かし、公益信託アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) をはじめ 3 つの公益信託の事務局として、助成先の開拓や事業の評価にあたりました。

フィリピンの ACT 事業現場を訪れた伊藤、堀部 (左側 2 名、2019 年 11 月)

### 活動の 実績

- 1 3 つの公益信託を合わせて 25 件・1,925 万 7,000 円の助成活動を事務局として支えました
- 2 上記の助成活動を通じて、アジアの人々約 4,400 人が受益しました

### アジア・コミュニティ・トラスト (ACT) の事務局

ACT は、アジアの途上国の人々の自立と発展を支援する日本で初めてのコミュニティ型公益信託です。1979 年の設立以来、16 か国で約 290 団体の現地 NGO が実施する 770 件あまりの事業に、総額 8 億 8,670 万円以上の支援をしてきました。ACC21 は 2005 年の設立以来 事務局を務め、質の高い助成活動を支えています。

2019 年度 助成件数 22 件 決定総額 1,641 万 4 千円 (5 か国)

### アジア留学生インターン受入れ助成プログラム 報告会

ACC21 の自主事業として「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム 2018 年度助成事業報告会」(2019 年 6 月 22 日、大阪府、参加者 27 人)を開催しました。本報告会では、2018 年度の ACT「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム」で助成を受けた団体とインターンに参加した留学生 5 組が、インターンでの学びや気づきを発表しました。

### 市民団体でのインターンを経験した留学生の声

※ ACT「アジア留学生インターン受入れ助成プログラム 2018 年度助成事業報告会」での発表から抜粋



ベトナム出身・Dさん

『様々なイベントに参加し、学生や通訳士と出会い、自信に溢れた人に影響を受けました。私は人前で話すことが苦手でしたが、以前と比べて成長しました。』

日本人に助けられた経験から、自身も言葉や文化の壁に苦勞する人々を応援したいと、プログラムに応募。医療通訳、交流事業、広報業務の補佐を担当。

〔受入れ団体：(特活) 多言語センター FACIL、兵庫県〕



中国出身・Zさん

『インターンシップを通じて、運営側の視点を持つことと社会包摂機能の重要性について学びました。活動を行う上では継続することも重要だと思いました。』

NPO の組織運営を学び、地域交流がしたいと、プログラムに応募。子ども向け体験学習機会の運営、不登校やひきこもりの子をもつ親の会の補佐などを担当。

〔受入れ団体：(特活) 奈良 NPO センター、奈良県〕

### 川上甚蔵記念国際文化教育振興基金の事務局活動

助成事業のモニタリング、新規事業の発掘調査、受託銀行との連絡・調整などに取り組みました。

2019年度助成件数 1件 決定総額 85万円 (1か国)

### 今井記念海外協力基金の事務局活動

助成団体との連絡調整・報告の取りまとめ、新規事業の募集・調査、受託銀行との連絡・調整などに取り組みました。

助成件数 2件 決定総額 199万3千円 (2か国)

※「公益信託今井記念海外協力基金」は、1977年に設立された、日本で最初の公益信託。

## 活動報告⑥ 日比 NGO 協働推進



「日比 NGO ネットワーク」(JPN)の事務局・正会員として積極的に活動を推進・参加

2006年に発足したフィリピンで活動する日本の NGO のネットワーク・JPNの事務局・正会員・運営委員の派遣団体として、運営委員会や学習会、提案活動などに積極的に参加しました。

第4回学習会では、講師2人を囲み、参加者と活発に意見交換を行いました(2020年2月)

### 活動の 実績

- 1 フィリピンの人々と協力活動を行う日本の NGO15 団体における経験、情報共有を推進しました
- 2 NGO 職員、企業社員、学生のべ73名の参加を得て、学習と交流の場を計4回提供しました

JPNの事務局として、会員や社会の関心が高いテーマとともに一般市民に開かれた学習会を企画・広報し、企業社員、NGO職員、大学生、高校生といった幅広い層から参加者を集めました。学習会終了後は開催報告記事を作成し、ウェブサイト等で学習会の成果を紹介しました。

また、会員専用のメーリングリストを活用し、会員団

体の活動に関する情報を共有したほか、ウェブサイト等で会員団体の活動やフィリピンについて情報を発信しました。学生や非会員団体からの問い合わせがあった際は、情報提供、人材の紹介に協力しました。職員がフィリピンを訪問した際は、現地 NGO との情報交換、関係維持に努めました。

\*学習会①「技能実習生と特定技能外国人を迎えて一両制度の仕組みと概要そして地域社会における NGO の役割を考える」(2019年6月24日、参加者22名、講師:福田綾子氏、事例報告:松野浩之氏)

\*学習会②「フィリピン・リスペクト教育に学ぶ多言語・多文化教育の在り方」(9月30日、参加者16名、講師:岸本紗希氏)

\*学習会③「フィリピンの経済社会開発の課題と国際協力: 私たちの役割を考える」(12月19日、参加者16名、講師:伊藤晋氏)

\*学習会④「知っているようで知らない、ストリートチルドレンの現実」(2020年2月25日、参加者19名、講師:清水匡氏、辻本紀子氏)

## 活動報告⑦ 広報啓発活動

ウェブサイトや SNS (Facebook、Twitter)、メルマガなどによる広報活動のほか、本年度からカラーの年次報告書を発行し、よりわかりやすい情報発信につとめました。

また、訪問グループの受入れ (3 組)、大学・シンポジウムへの講師派遣等を積極的に行ったほか、海外からのインターン生や学生アルバイトの力を借りて、若者向けのイベントの開催にも力を入れました。

さらに、個人支援者のご厚意で、「ビッグイシュー日本版 4 月 15 日号 (Vol.357)」に「フィリピンの路上で暮らす若者のための自立支援プロジェクト」についての広告記事が掲載されました。

2019 年 11 月には、東京で開催された「第 23 回写真家達によるチャリティー写真展」で ACC21 の活動紹介を行い、写真展の収益金の中から 50 万円をご寄付いただきました。

### “SDGs とわたしたちにできること —英語と日本語で考える国際協力—”



2019 年 8 月 8 日、サマーインターンとして ACC21 に参加していたスカイラー・ショルマンくん (アメリカの大学生) とアルバイトの松原信英くん (国内の大学院生) が中心となって、SDGs をテーマにイベントを開催しました。

当日は、ACC21 がどのように SDGs の達成に貢献しているのか、アメリカの若者はどのように国際協力に取り組んでいるのかをお話しし、一人ひとりどのようなことに取り組めるのか考えてもらう時間としました。

参加者の半数以上が高校生で、若いうちから世界の取り組むべき課題に関心をもって知ろうとする姿勢、発信しようとする姿勢にスタッフも感銘を受けました。

### “アジアの子どもと女性に夢を 第 23 回写真家達によるチャリティー写真展”

2019 年 11 月 22 ~ 26 日、東京・大崎の光村グラフィックギャラリー (MGG) にてチャリティー写真展が開催され、200 人以上の方



が来場されました。本写真展は、プロの写真家が思いを込めた写真作品を会場で販売し、売上金を国際支援団体に寄付する社会貢献活動です。

23 回目となる今回は収益金を ACC21 に寄贈いただくこととなり、会期中にはスリランカとフィリピンでの ACC21 の支援活動について報告する機会もいただきました。

2020 年 2 月 7 日には、写真展の会場提供等にご協力いただいた光村印刷株式会社の会議室で贈呈式が行われ、写真展主催のフォトボランティアジャパン基金から収益金 50 万円が寄贈されました。

いただきました収益金は、フィリピンの路上で暮らす若者の自立支援と、スリランカの農村女性の人材育成と収入向上などの活動のために、活用させていただいています。フォトボランティアジャパン基金をはじめ、ご協力・ご来場いただいた皆さまに、厚く御礼を申し上げます。

#### 《大学・シンポジウムへの講師派遣等》

\* (公財) 生協総合研究所 2018 年度助成事業 成果報告会  
「スリランカ女性住民組織による共同農業ビジネス開発と市場開拓を通じた地場産業の育成と女性のエンパワメント」  
(鈴木事務局長、2019 年 4 月 27 日)

\* ダスキン・アジア太平洋障がい者リーダー育成事業「公益信託アジア・コミュニティ・トラストの概要」(アンガラ、5 月 30 日)

\* 中央大学経済学部特別公開授業 (国際協力論) 「フィリピンの路上で暮らす若者に雇用と未来を：ストリートチルドレン・ゼロに向けた ACC21 の挑戦」(伊藤代表理事・辻本、5 月 28 日)

\* 名古屋学院大学「私のこれまでの NGO 活動への関わりとフィリピンのストリートユース支援事業～2030 年 (SDGs) に向けて～」(伊藤代表理事、12 月 3 日)

\* 日比 NGO ネットワーク第 4 回学習会 (辻本、2020 年 2 月 25 日、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」)

#### 《イベントの開催等》

- \* 「第90回メーデー中央大会」へのACC21ブース出展  
(2019年4月27日、主催:第90回メーデー中央実行委員会、  
場所:代々木公園)
- \* 「第15回幕張チャリティ・フリーマーケット」へのACT  
ブース出展(5月19日、主催:神田外語大学CUP、  
場所:神田外語大学キャンパス)
- \* 「ビッグイシュー日本×ACC21とことん考える子どもの貧困、  
若者の貧困—国境を越えて」(5月12日、有限会社ビッグイ  
シュー日本との共催、参加者約30名、場所:アジア文化会館)

- \* ACT特別基金「アジア留学生等支援基金」の「2018年度ア  
ジア留学生インターン受入れ助成プログラム」報告会(6月  
22日、参加者27名、場所:大阪)
- \* 「SDGsとわたしたちにできること—英語と日本語で考える  
国際協力—」(8月8日、参加者約20名、場所:新宿区)
- \* 「アジアの子どもと女性に夢を第23回写真家達によるチャリ  
ティー写真展」への協力(11月22～26日、主催:フォトボ  
ランティアジャパン基金、来訪者約200名、場所:MGG(光  
村グラフィックギャラリー)、ギャラリートークでの発表  
(「現場報告:写真の向こう側のアジア」、参加者約10名、  
11月23日)

## 活動報告⑧ 制策・制度変革のための提言事業

右記のネットワーク・団体のメンバーとして、それぞ  
れの政策提言に加わりました。

理事個人では、代表理事(伊藤)が、JANICの顧問、(公  
財)公益法人協会の評議員、「適正技術フォーラム」の理  
事として参加しました。

- ・(特活)国際協力NGOセンター(JANIC)正会員
- ・日比NGOネットワーク(JPN)正会員
- ・グローバル連帯税フォーラム 正会員
- ・NGO-労働組合国際共同フォーラム 参加団体
- ・(特活)シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 賛助会員

## 活動報告⑨ その他の活動

### 新理事、アドバイザーの就任

2019年6月の理事会・総会において、2名の理事が選  
任され、就任しました。

- 有川 凜** ((一財)RINDA foundation JAPAN 代表理事)
- 湯本 浩之** (宇都宮大学 留学生・国際交流センター 教授、  
(特活)開発教育協会 代表理事)

2019年7月、アドバイザーが就任しました。

- 太田 達男** ((公財)公益法人協会 会長)

※太田氏は、長年にわたり日本の民間公益活動を推進され、  
ACTの信託管理人としても指導いただいています。

### 「アジア若者みらい基金」の設定

アジアの絶対的な貧困者への支援や未来を創造する協働  
化に取り組む次世代の育成を目的に、「アジア若者みらい  
基金」を設定しました。

### ほがらか信託株式会社との協力、 遺贈・相続財産によるご寄付のパンフレット制作

遺贈を含む寄付検討者が利用できる仕組みや、信託制度  
を利用した寄付の仕組みの開発と実施、寄付に関する相談  
対応などについて、ほがらか信託株式会社と協力しています。  
また、昨年度に開設した「遺贈・相続財産によるご寄付」

の専用ページ(<http://acc21.org/campaign/legacy>)に加え、  
2019年度はパンフレットの制作に着手しました。

パンフレットのPDF版は、ウェブサイトからダウンロー  
ドいただけます。ぜひご覧ください。

[http://acc21.org/ACC21\\_legacy.pdf](http://acc21.org/ACC21_legacy.pdf)



### すっきり寄付(物品の寄贈による寄付)

資金の開拓と、潜在的な協力者・支援者の拡大を目的と  
して、「すっきり寄付」(物品の寄贈による寄付)に取り組み  
ました。のべ45名の方にご協力いただき、10万3,592円の  
収入となりました。ご協力いただいた皆さまに、この場を借  
りて御礼を申し上げます。

未使用切手受入れ額	48,693円
書損じ・未使用はがき	15,388円
外貨(保有高の円換算額)	7,343円
古本募金(14件)	10,233円
その他換金額の合計(※)	21,935円

※換金した物品の内訳:  
使用済切手(約1,900g)、外貨(硬貨・紙幣約5,000g)  
プリペイドカード等(使用済:約1,600g、未使用:30枚)  
株主優待券(7枚)

## 4. 2019年度の会計報告

### ①活動計算書

科目	金額	小計・合計
<b>I. 一般正味財産増減の部</b>		
<b>【A】経常収益</b>		
1. 受取会費		528,000
正会員 受取会費	168,000	
賛助会員 受取会費	360,000	
2. 受取寄付金		7,400,060
受取寄付金	7,251,582	
受取寄付金振替額 (日韓みらい若者支援事業)	148,478	
3. 受取助成金等		4,975,300
受取助成金	4,975,300	
4. 事業収益		10,685,626
受託事業収益	10,564,126	
自主事業収益	121,500	
5. 負担金収益		1,958,618
共同事業負担金収益	1,958,618	
6. その他の収益		581,602
受取利息	62	
雑収入	581,540	
経常収益計		26,129,206
<b>【B】経常費用</b>		
1. 事業費		22,979,047
人件費	12,160,223	
その他経費	10,818,824	
2. 管理費		4,700,874
人件費	2,554,281	
その他経費	2,146,593	
経常費用計		27,679,921
当期経常増減額【A】－【B】…①		-1,550,715
<b>【C】経常外収益</b>		0
<b>【D】経常外費用</b>		0
当期経常外増減額【C】－【D】…②		0
税引前当期一般正味財産増減額 ①＋②…③		-1,550,715
法人税、住民税、事業税…④	70,000	
前期繰越正味財産額…⑤	4,509,592	
次期繰越一般正味財産額 ③－④＋⑤		2,888,877
<b>II. 指定正味財産増減の部</b>		
受取寄付金 …⑥		347,000
「アジア若者みらい基金」 (日韓みらい若者支援事業指定)	347,000	
一般正味財産への振替額…⑦		-148,478
当期指定正味財産増減額 ⑥－⑦		198,522
前期繰越指定正味財産額		0
次期繰越指定正味財産額		198,522
次期繰越正味財産額		3,087,399

### ②貸借対照表

科目	金額	小計・合計
<b>【A】資産の部</b>		
1. 流動資産		6,488,282
現金預金	6,236,438	
未収金	115,648	
棚卸資産	129,284	
仮払金	6,912	
2. 固定資産		225,288
有形固定資産	225,288	
無形固定資産	0	
投資その他の資産	0	
資産合計		6,713,570
<b>【B】負債の部</b>		
1. 流動負債		3,400,883
未払金	553,825	
前受金	1,910,000	
預り金	104,458	
未払法人税等	70,000	
未払消費税	762,600	
2. 固定負債		225,288
リース負債	225,288	
負債合計		3,626,171
<b>【C】正味財産の部</b>		
1. 指定正味財産		198,522
アジア若者みらい基金	347,000	
当期正味財産増減額	-148,478	
2. 一般正味財産		2,888,877
前期繰越一般正味財産額	4,509,592	
当期一般正味財産増減額	-1,620,715	
正味財産合計		3,087,399
<b>【D】負債及び正味財産合計【B】＋【C】</b>		6,713,570

より詳しい決算報告書は、ウェブサイトからPDF版をダウンロードいただけます。

[http://acc21.org/FinancialReport2019\\_ACC21.pdf](http://acc21.org/FinancialReport2019_ACC21.pdf)



## 5. 事務局から

2019年度の活動を支えてくださり、ありがとうございました。  
2020年3月、ACC21は15周年を迎えました。これからもよろしくお願いたします。

より詳しい事業報告は  
ウェブサイトでご覧ください

[http://acc21.org/AnnualReport2019\\_ACC21.pdf](http://acc21.org/AnnualReport2019_ACC21.pdf)



### 編集後記



コロナ禍のなかで、持続可能な環境や農業、地産地消、人とのつながり、などの大切さが、字面ではなく実感を伴い世界中で見直されていると感じています。インドネシア辺境の地では再生可能エネルギーを活用した地場産業育成と

いう目標に向けて三者で話し合いを重ね、市場開拓を行う第2フェーズに入りました (p.9)。女性支援 (p.4-5) では、女性農家が市場を開拓するというハードルの高い課題に取り組み、自立運営できるまでになりました。異なる背景をもつ者どうしが協働するなかでは、互いに忍耐と努力を要することもあります。重要な学びとして、SDGs 達成に向けワンチームで取り組んでいます。(鈴木 / 副代表理事、事務局長)

最澄の「一隅を照らす」という言葉について、以前中村哲医師がテレビ番組で「世界中を豊かにするだとか、全人類を救うだとかそういうのではなくて、一隅、自分の身のまわりから照らして行ってください。別に大きなことはせずとも、ひとつひとつできることをしていく以外に何かを実現する方法は無い」と話されていました。自分のできることで人の役に立っているのかなと、日々幸せに生活しています。(藤岡 / 経理担当)



8月にフィリピン・マニラを訪れ、「路上で暮らす若者の自立支援プロジェクト」(p.6-7)の現場視察や若者たちの家庭(や路上の住まい)訪問をしてきました。路上生活から抜け出すためにトレーニングに励むお母さんたち

(20歳前後)に連れられて無邪気に遊ぶ1-2歳の子どもたちが我が子(2歳)に重なり、幼い子どもたちの未来のためにも頑張らなければ、と強く思いました。(辻本 / ストリートチルドレン事業・広報担当)



2019年7月より、ACC21で働いています。11月にはフィリピンを訪問し、ACT、川上基金(p.10-11)助成先の活動地を訪問し、事業の進捗確認を行いました。現地へ赴き、人々の暮らしぶりや抱える課題を自分の五感で把握し、「アジアの人々が支え合う社会を実現したい」と一層強く感じました。アジアの人々の自立のお手伝いができるよう、力を尽くしたいです。(堀部 / ACT フィリピン・JPN 担当)

## ACC21とは？

アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21) は、アジア 12 か国の 100 以上の現地 NGO とのネットワークを基盤にアジアの貧困削減にむけて活動する国際協力 NGO です。

**Vision** アジアの人々が共に生き、支え合う、世界に開かれた、公正で平和な社会

**Mission** 4つの“流れ”とひとづくりを推進し、市民・民衆・NGOなどを基礎とした市民社会の協働ネットワークを構築していきます。



「資金」の流れ



ひとづくり



「知識・情報」の流れ



「政策・制度変革」の流れ



「ひと」の流れ

## ご寄付のお願い

ACC21 の活動は、皆さまからのご寄付や会費によって支えられています。  
ACC21 へのご寄付・賛助会費は、税制上の優遇措置の対象となります。

### 【ご寄付・会費のお振込み先】

《ゆうちょ銀行》

口座番号：**00160-6-718320**

特非) アジア・コミュニティ・センター 21

《みずほ銀行 駒込支店 (559)》

普通口座：**1120451**

特非) アジア・コミュニティ・センター 21

※銀行振込の場合は、ご寄付者さまのお名前とご住所をメール (kifu@acc21.org) またはお電話 (03-3945-2615) でお知らせください。

クレジット決済をご希望の方はこちら



<http://acc21.org/donation/kifu.html>



## 会員を募集しています

ACC21 の活動を支える会員を募集しています。ご関心がありましたら、ACC21 までお気軽にご連絡ください。

### 【会員の種類と年会費】

正会員 : 12,000 円 / 年

賛助会員 (個人) : 5,000 円 / 年・口

賛助会員 (団体) : 50,000 円 / 年・口

(会費はクレジット決済でもご納入いただけます)

### 【会員の特典】

○ ACC21 の主催する各種イベントに参加できます

○ アジアの現場からの情報を提供します

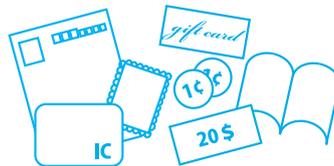
○ 国際協力に関する情報を提供し、助言します

○ アジアでの社会貢献活動について情報提供・助言します

## すっきり寄付

集めて、送る—そのひとてまが  
アジアの人々を助ける力になります

おうちに眠るものを、お金に換えて**困難な状況にあるアジアの子どもや女性たちのために活用**します。



寄付をきっかけに  
物を減らして  
気分もすっきり!

### ●集めているもの

1. はがき (書き損じ・未使用)
2. 未使用切手 (日本、外国)
3. 使用済み切手 (日本、外国)
4. 外国通貨 (硬貨、紙幣)
5. プリペイドカード (使用済・未使用)
6. トレーディングカード (使用済・未使用)
7. 商品券、株主優待券 (未使用)

### ●送り先

ACC21 事務所 (下記住所)  
すっきり寄付係まで!



ご送付前に、申込用紙またはウェブサイトに記載の注意事項をお読みください。

<http://acc21.org/donation/sukkifu.html>



認定 NPO 法人

アジア・コミュニティ・センター 21 (ACC21)

〒113-8642 東京都文京区本駒込 2-12-13 アジア文化会館 1F  
Tel : 03-3945-2615 Fax : 03-3945-2692 Email : info@acc21.org

URL : <http://acc21.org>

<https://www.facebook.com/acc21.org>

Twitter: @ACC21\_NGO

発行日 : 2020 年 8 月 31 日 編集・発行 : ACC21